

受講申込書

ふりがな 氏名	(県民カレッジ単位希望者のみ記載してください) 〒
電話番号	

※取得した個人情報は、本講座以外の目的で使用することはありません。

受講を希望する講座に○をつけてください(複数可)

実施月	対象文学者 / 講演題 / 講演者 / 講座概要
○ 9/2 (土)	<p>瀧口修造 富山県美術館開館記念連携企画 詩人瀧口修造を読む</p> <p style="text-align: right;">恵泉女学園大学 特任教授 林 浩平氏</p> <p>シュルレアリスム精神を忠実に体現する瀧口修造には、言葉に対する厳格な考えがありました。言葉を記号や象徴を超えた絶対的価値とみなしたのです。ですからその詩を読もうとして、大岡信は「私の脳髓の言葉影像受信装置」は「苦痛の涙」を流したと告白します。難解すぎてお手上げと言うのです。そこには言語と物質の一元化の夢を生き「物憑き」を自称した瀧口の物質への激しい欲望も関わらるでしょう。本講演では『詩的実験1927～1937』、『夢三度』など夢記述、晩年の「自在諺」を対象に、「詩人」瀧口修造の世界を探求します。</p>
○ 10/8 (日)	<p>翁 久允 特別コレクション室「新資料・翁久允と竹久夢二」 展示開始記念講演ならびに対談 「異色の小説家・翁久允 — 日本文壇における評価」</p> <p style="text-align: right;">【講演・対談講師】富山大学 准教授 水野真理子氏 【対談講師】元聖徳大学 教授 逸見 久美氏</p> <p>翁久允は富山県民にとって、とくに文化人・文筆家・郷土研究家として知られているだろう。しかし、彼の活躍の出発点はアメリカ時代の小説執筆にあり、夢は日本の文壇で小説家としてデビューすることだった。帰国後、週刊朝日の編集局長として文壇人らと交流し、『道なき道』『アメリカルンペン』などの小説を発表した翁は、中央文壇においてどのように評価されていたのか。1920～30年代に異色の小説家として活躍した翁像に迫ってみたい。</p>
○ 10/21 (土)	<p>源氏鶏太 源氏鶏太が描いた「サラリーマン」</p> <p style="text-align: right;">東邦大学理学部教養科(人文科学) 准教授 鈴木 貴宇氏</p> <p>源氏鶏太は昭和30年代から50年代にかけて、「サラリーマン小説」の代表的な書き手として多くの読者に親しまれてきました。その作品の多くは映画化もされ、源氏の名をメディアで見ないことはないほどでした。代表作『三等重役』(1952年)を中心に、その理由をお話します。</p>
○ 12/10 (日)	<p>富山の歌人たち 呉羽山の文学を訪ねる</p> <p style="text-align: right;">富山県歌人連盟 顧問 久泉 迪雄氏</p> <p>文学や文学史の探究を概念に終わらせたくはありません。それには身近にある文芸の現場を実地に探索して、文芸作品の世界を追体験することが何よりも大切でしょう。ごく身近にそれにふさわしい場所があります。その場所を呉羽山に定め、先人の文学的な営みに分け入りたいと思います。</p>